

# めでいかすとり Médicastre

## 一般社団法人 鶴岡地区医師会 基本理念

鶴岡地区医師会は、地域住民の健康維持・増進と健やかな長寿社会の実現のために地域に貢献するとともに、医の心を忘れず知識と技術の向上をめざし、不断の研鑽に励みながら日々前進する組織をめざします。



「白銀の出羽三山と庄内平野」

## 鶴岡地区医師会新年祝賀会 ～ピンチはチャンス～

日時：令和8年1月16日(金)

場所：新茶屋

1月16日、新茶屋にて鶴岡地区医師会の新年祝賀会が開催されました。私は初参加でしたので「一体どのような雰囲気なんだろう」と思っておりましたが、市を牽引する方々が大量集う、大変活気のある会でありました。私が市役所時代にお世話になった方々も多くご出席されており、なつかしく思うとともに、改めて「ご縁」の大切さを感じたところです。

さて、会の冒頭で福原会長よりご挨拶があり、その中で「これはヒントになるのでは」と感じたことがありましたので少しお話したいと思います。会長からは「高齢者施設の嘱託医の配置、在宅診療を担う医師の確保とそのバックアップ体制、産業医の推薦、死体検案に従事する医師の対応」がこの地域医療の喫緊の課題とのお話があり、確かにそのとおりだと思ったところです。私は常々、地域医療がしっかり維持されていくためには、前提となる経営がしっかりしないといけないと思っており、そのことは人材が集まり、そして定着する「魅力ある職場づくり」にも直結するものと思っています。少子化、人口減少が加速する中、人材の確保も大きな課題となっており、その重要性もますます高まっています。

「ピンチはチャンス」という言葉がありますが、会長のお話を聞いてピンチをチャンスに変えるヒントがあったように感じたところです。人生には次から次へと新たな「壁」が出てきますが、私はこれらは天がくれたチャンスであり、それらを一つひとつ乗り越えたところに人(魂)の成長もあると思っています。地域医療が抱える様々な課題に真摯に向き合う中で、医師会としても何かしらチャンスをつかむことができるのではないかと感じたところです。

今年は丙午(ひのえうま)で良くないイメージもありますが、本来は情熱や勢いが高まり、エネルギーに満ちた新しい挑戦に適した年だそうです。私も医師会の諸先生、皆様よりご指導いただきながら、少しでも医師会の発展に貢献できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院

事務部長 佐藤 豊



伊藤敦鶴岡市副市長  
来賓祝辞



酒井朋久酒田地区医師会十全堂会長  
来賓祝辞



阿部誠三川町長  
乾杯



福原晶子会長  
会長あいさつ



石原良副会長  
閉会のあいさつ



## 第45回 市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和7年12月9日(火) 18：30～  
場所：グランドエル・サン

令和8年1月号に続き、鶴岡地区医師会理事 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 院長 武田 憲夫 先生の抄録を掲載いたします。

\* \* \* \* \*

### リハビリテーション病院における医療安全 当院における“転倒・転落”予防への取り組み

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 院長 武田 憲夫 先生

入院患者さんの“転倒・転落”は、骨折や脳挫傷など、患者さんに重大な損傷を来しうる事故であり、その予防への取り組みは、病院にとって医療安全上の主要な課題の一つです。本懇談会では、当院における、約10年にわたる“転倒・転落”予防への取り組みを紹介致しました。医療事故を予防、少しでも減少させるためには、死亡、骨折など大きな事故のみに注目するのではなく、思い違いや“うっかり”など、事故に至らなかったが関連した小さな事象、小さな事故（インシデント）など全ての事象を職員から報告する制度（院内事故報告制度）を設け、それらを収集分析し、予防策を提案、全職員で共有し、お互いに注意し合いながら（チームワーク医療）、重大事故を起こさない環境作り、システム作りが重要です（ハインリッヒの法則）。リハビリテーション病院は、高齢者や認知症、歩行不安定な患者さんが多く、転倒・転落が起きやすい条件が揃っています。特に、当院のような地方病院はそれが顕著です。このため当院では、2013年から、「転倒・転落予防への取り組み」を、全病院的に開始致しました。転倒ハイリスク者の判定と転倒しやすい環境の評価と改善、監視体制の整備などに取り組み、1. 患者側のリスクファクター（内的要因）の分析、2. 病院側のリスクファクター（外的要因）の分析と環境の整備、3. アセスメントスコアシートの作成（転倒しやすいの程度をスコア化）、4. 多職種による、評価の確認、情報共有と監視体制整備、5. PDCA サイクルによる定期的な見直し、体制の再構築。さらに院内研修会の開催などを行ってきました。その結果、転倒・転落の量的指標である、転倒転落率（％パーミル：転倒数/延べ入院患者数）は2014年の5.6％から、年々低下し、2024年には2.2％まで低下しています（図1）。ちなみに、全国の回復期リハビリテーション病棟での転倒転落率の平均値は、3.6％（回復期リハビリテーション病棟協会調査報告書 2025年）であり、当院は非常に低い値で推移しています。2024年10月号の、回復期リハビリテーション協会誌の特集記事「良質な回復期リハビリテーション医療を支える、プロセス充実への取り組み」に、全国約400あまりの病院から27病院が選ばれ紹介されましたが、「転倒・転落」の分野では、当院の対策が選ばれ、掲載されました。しかしながら、それでも、転倒・転落後に重症となった発生数を4年ごとに見ると、9件→8件→3件と減少はしていますが、ゼロにはなっていません。転倒して亡くなった例も経験しており、今後も引き続き、多職種で協力し、重症例ゼロを目指して、より安全な医療に向け精進して行くことを誓い、発表としました。

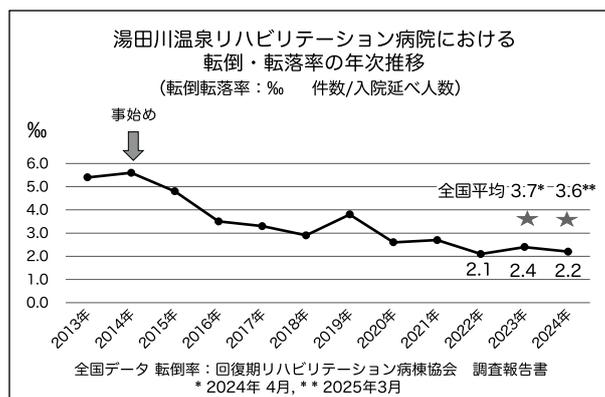


図 1

## 令和7年度 地域医療連携推進協議会・登録医・医師会・荘内病院合同懇談会

日時：令和7年12月2日(火) 19:00～  
場所：東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間



令和7年12月2日(火)に、東京第一ホテル鶴岡を会場に合同懇談会を開催しました。

登録医、医師会をはじめ、歯科医師会、薬剤師会及び市議会議員の方々から90名の参加をいただき、今年度の荘内病院の先進的治療等について紹介をしました。

懇談会終了後には、68名が参加いただき、懇親会を開催し、楽しく交流を図ることができました。懇談会では、荘内病院の3名の方から、話題提供をいただきました。概要は次のとおりです。

### 【第一題】 国立がん研究センター東病院との連携 「おんらいん がん相談」について

鶴岡市立荘内病院 緩和ケア認定看護師 上林 沙希子 氏

当院は2020年7月に国立がん研究センター東病院と遠隔地域医療連携協定を締結し、地方都市でも最新のがん治療を受けられる体制づくりを進めてきました。初年度は「がん相談外来」を開設し、東病院の専門医が月1回来院して患者相談を行いました。2年目以降は看護師がオンラインで東病院の専門研修を受講し、3年目には東病院の医師からオンラインで指導を受けながら実施する遠隔アシスト手術など、診療・看護の両面で連携を深めてきました。さらに市民公開講座や東病院で治療して退院した患者の栄養指導、人事交流も行い、地域に根ざした活動を展開しています。



今年6月からは新たに「おんらいん がん相談」を開始しました。これは東病院の専門医によるセカンドオピニオンをオンラインで実施するもので、受診手続きから診療までを当院が支援します。特徴的なのは、必ず看護師が同席し、患者理解を支援する点です。費用は保険外診療で33,000円ですが、県外受診に伴う交通費や宿泊費を考えると負担軽減につながっています。

受診者は50～70代が中心で、標準治療終了後や再発治療に関する相談が多く寄せられています。症例としては、S状結腸がんで副作用の少ない新薬を提案された例、胃がんでICIの副作用があり再投与は慎重に判断するよう助言された例などがありました。看護師は医療情報の補足、理解度確認、治療選択肢の説明、環境調整などを行い、意思決定支援を中心に継続的に関わっています。

アンケートでは「対面と変わらず相談できた」「遠方への移動負担がなく助かった」「医療知識不足を補ってもらえた」といった声が寄せられ、満足度は高い結果となりました。今後も症例数の増加に対応しつつ、患者さんとご家族が安心して治療選択できるよう支援を続けてまいります。

### 【第二題】 培養移植について

鶴岡市立荘内病院 眼科医長 柿栖 康二 先生

角膜は黒目の部分にあたる透明な組織で、光を屈折させて網膜に像を結ぶ機能と、外界からのバリア機能を担っています。厚さは約0.5mmと非常に薄いですが、上皮・実質など5層構造から成り立ち、特に角膜上皮は新陳代謝が活発で、約7日間で細胞が入れ替わります。角膜上皮の維持には「XYZ理論」があり、基底細胞の増殖(X)、周辺からの細胞移動(Y)、表層細胞の脱落(Z)が均衡することで健康が保たれます。

この均衡を支えるのが角膜輪部の幹細胞であり、供給とバリア機能を果たしています。しかし輪部が障害されると幹細胞が失われ、角膜上皮の再生ができず結膜組織が侵入し、透明性が失われる「輪部幹細胞不全(LSCD)」となります。原因にはスティーブンス・ジョンソン症候群や化学外傷などがあり、重篤な視機能障害を引き起こします。



従来の治療はドナー角膜から輪部組織を移植する方法でしたが、拒絶反応や免疫抑制の必要性、長期成績の不良、ドナー不足などの課題がありました。3年後の透明性維持率は約30～60%、5年後には25%程度に低下する報告もあります。

近年注目されているのが「自家培養口腔粘膜上皮移植」です。患者自身の口腔粘膜から幹細胞を採取し、培養してシート状にしたものを角膜に移植する方法です。口腔粘膜は角膜上皮と同じ重層扁平上皮であり、幹細胞を含むため再建が可能です。自家組織を用いるため拒絶反応がなく、免疫抑制も少なく、成績も改善しています。海外報告では2年以上の透明性維持率が65%以上とされ、2021年には再生医療等製品として保険収載されました。

実際の症例として、眼類天疱瘡により角膜輪部幹細胞不全を呈した70歳女性に施行した例では、口腔粘膜を採取・培養し、移植を行いました。術後早期から視力改善が得られ、角膜透明性も回復しました。今後も長期経過観察が必要ですが、従来法に比べて大きな可能性を示しています。

さらに角膜内皮障害に対しても、従来のドナー角膜移植に代わり、培養内皮細胞を用いた新しい治療が研究されています。少量のドナー細胞から多数の培養が可能で、注射による簡便な移植法も開発されつつあり、ドナー不足解消や低侵襲治療につながると期待されています。

角膜治療は従来の移植から再生医療へと大きく進展しており、患者自身の組織を活用することで安全性と成績の向上が図られています。今後も環境整備や炎症制御を含めた総合的な管理が成功の鍵となり、視機能回復に向けた新しい選択肢として広がっていくことが期待されます。

### 【第三題】最新の血管内治療について

鶴岡市立荘内病院 脳神経外科主任医長 山木 哲 先生

脳動脈瘤は、人口の2～6%に存在するとされ、年間0.97%が破裂しくも膜下出血を発症します。鶴岡市の人口約10万人で概算すると、約3,000人に脳動脈瘤が存在し、年間30人弱がくも膜下出血を発症することになります。発症予防の治療は降圧を行いながら経過観察する方法と、積極的な外科治療として開頭し動脈瘤にクリップをかける「クリッピング術」と、カテーテルで治療する「血管内治療」があります。クリッピングは長期安定性に優れるという利点がありますが、侵襲がやや大きいという欠点があります。対して血管内治療は低侵襲であるのが利点ですが、大型瘤や広頸部瘤では再発率が高く、長期的な安定性がやや劣るといった欠点がありました。



そこで近年登場したのが新しい血管内治療デバイス「フローダイバーターステント」と「Woven EndoBridge (WEB) デバイス」です。フローダイバーターステントは親血管に細かい網目のステントを留置し、血流を瘤内に流入させないことで動脈瘤内の血栓形成を促し、瘤を自然に閉塞させる治療です。2015年に本邦で承認され、当初は大型瘤のみが対象でしたが、2020年から中型瘤にも適応が拡大しました。従来のコイル塞栓術では時間経過とともに再発が見られることがありましたが、フローダイバーターでは経時的に瘤が縮小し、長期的に安定した閉塞が得られることが報告されています。

WEBは瘤内に袋状のデバイスを留置し、血流を遮断して血栓形成を促すものです。2020年に承認され、分岐部動脈瘤かつ広頸部瘤に適応があります。従来の治療では広頸部瘤に対し母血管にステントを留置しコイル塞栓術を行うため、手技が煩雑であることや長期に抗血栓薬を使用する必要がありましたが、WEBは簡便な手技であるため短時間で治療が可能で、母血管に異物を留置しないため抗血栓療法が短期間で済む利点があります。

さらに今年2月には最新型の血管撮影装置「Azurion7」を導入しました。高精細かつ自由に拡大できる画像により、精密な手技が可能となり、従来の装置では平均被曝線量2.1GyでしたがAzurion7では0.5Gyへと大幅に低減されました。放射線被曝の面でも安心して治療を受けていただける環境が整いました。

フローダイバーターやWEBの使用にはライセンスが必要ですが、当院では認定医が対応しており、県内でも限られた施設として最新治療を提供しています。

今後も当院では最新のデバイスと撮影装置を活用し、安全な血管内治療を行い地域の負託に応えていきたいと思っております。

# My Memories

第3回

幼少期や学生時代の思い出のエピソードなどを語っていただきました。



医療法人なごみ会 産婦人科・小児科 三井病院 三井 卓弥



何かネタになる写真がないかと探していたところ見つけた写真で、中学校入学式の写真です。ご存じの方も多いと思いますが私は4人兄弟で全員4,000g以上で生まれ、中でも私が最重量で5kg超えでした。この仕事をしている中でいまだに自分を超える赤ちゃんには出会っていないことを考えると、隣に写る母の偉大さを改めて感じています。このころ元横綱柏戸から父に4兄弟の誰かを入門させてほしいとの話があったそうで、その第一候補が私だったという話を聞きました。父は断りましたが、角界入りしていれば若貴と戦っていたかもしれません。



## 医師会ニューフェイス

①氏名(採用日) ②所属 ③趣味・特技 ④ひとこと



- ① 後藤 直(令和8年2月1日採用)  
 ② 介護老人保健施設みずばししょう  
 介護支援課 介護福祉士  
 ③ 買い物、献血  
 ④ 入所されている方々の支えになれるよう、先輩方からたくさん学び頑張っていきたいです。よろしくお願ひいたします。



- ① 齋藤 玲子(令和8年3月1日採用)  
 ② 荘内地区健康管理センター  
 臨床検査課 臨床検査技師  
 ③ キックボクシング、聴く読書  
 ④ 一日も早く業務に慣れ、これまでの経験を活かし、即戦力として貢献できるよう精一杯努めます。よろしくお願ひいたします。



- ① 今野 光明(令和8年3月1日採用)  
 ② 介護老人保健施設みずばししょう  
 介護支援課 介護福祉士  
 ③ 海釣り  
 ④ 早く仕事に慣れ、皆様と楽しく仕事をできればと思います。ご指導等よろしくお願ひいたします。

### めでいかすとる1月号 お詫びと訂正

1月15日発行 めでいかすとる1月号(第373号)の「鶴岡みらい健康調査セミナー」において、土岐了大先生の肩書きに誤りがありました。

【誤】 教授 土岐 了大先生

【正】 助教 土岐 了大先生

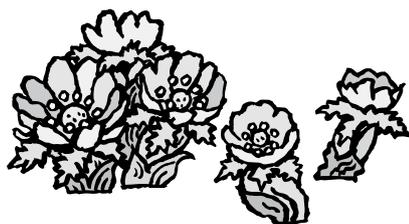
謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

## 故 竹田 文洋 先生 心よりお悔やみ申し上げます

令和8年2月10日ご逝去 享年59歳

### 1月・2月行事表

1月5日	鶴岡市賀詞交換会	2月2日	みずばしょう運営委員会
〃	新年会長挨拶	3日	県医サイバーセキュリティ対策に関する研修会
13日	庄内南部地域連携パス推進協議会全体会	4日	県医第10回常任理事会
14日	県医第9回常任理事会	5日	鶴岡みらい健康調査推進会議
〃	緩和ケア症例検討会	〃	学術広報委員会
15日	歯科医師会新年祝賀会	6日	在宅サービスセンター運営委員会
16日	医師会新年祝賀会	9日	湯田川温泉リハビリテーション病院経営委員会
17日	薬剤師会新年祝賀会	〃	整形外科症例検討会
20日	用度委員会	12日	総務部運営委員会
〃	総務委員会	13日	県医医療従事者安全確保対策研修会
21日	庄内地域災害医療連絡調整会議	〃	健康管理センター運営委員会
22日	職員採用面接試験	14日	県医消化器検診研修会
23日	職員採用面接試験	16日	日本海総合病院、鶴岡市立荘内病院、庄内余目病院及び庄内保健所による新興感染症等の発生を想定した合同訓練
26日	定例理事会	17日	鶴岡市予防接種対策委員会
28日	県医第10回全理事会	18日	緩和ケア症例検討会
〃	職員採用面接試験	〃	機器選定委員会
〃	胃がん検診読影従事者講習会	19日	県医死体検案研修会
〃	三川町障害支援区分認定審査会	〃	鶴岡市地域包括センター運営協議会
29日	つくし運営委員会	20日	県医医業承継セミナー
〃	ふきのとう運営委員会	〃	主治医研修会
30日	新入会員オリエンテーション	21日	県医学校医大会
31日	郡市地区医師会長と県医師会との連絡会議	24日	定例理事会
〃	地域一体型NSTケースカンファレンス	25日	地域感染対策合同カンファレンス
		〃	県医第11回全理事会
		〃	産業医学研修会
		27日	腹部超音波症例検討会
		28日	RDD2026 in 鶴岡
		〃	庄内PJ・医科歯科連携推進委員会 合同活動報告会
		〃	県医循環器検診研修会



## 令和7年度 第10回定例理事会

(令和8年1月26日)

出席者	会	長	： 福原晶子						
	副	会	長	： 石原 良	菅原真樹				
	理	事	： 武田憲夫	三原一郎	蘆野吉和	本田 学	吉田 宏	岡田恒人	
			鈴木 聡	須貝孝一	三浦道治	渡邊秀平	中目哲平		
	監	事	： 阿部周市						
	議	長	： 堀内隆三						
	副	長	： 三井卓弥						
	議	局	： 土屋清光	五十嵐亜希	難波 崇	金内弘子			
	務								

## 報 告

- (1) 県医第9回常任理事会について(鈴木理事)
  - 1月14日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- (2) 庄内地域災害医療連絡調整会議について(須貝理事)
  - 1月21日(水) 19:00 オンライン開催
- (3) 鶴岡警察署検視立会及び検案依頼状況について(福原会長)
- (4) 職員の退職について(三浦理事)
- (5) 令和7年12月期事業会計収入実績について(参考)
- (6) その他
  - ・新入会員オリエンテーションについて(福原会長)
    - 12月26日(金) 19:00 会議室
  - ・歯科医師会新年祝賀会について(福原会長)
    - 1月15日(木) 18:00 グランドエル・サン
  - ・医師会新年祝賀会について(福原会長)
    - 1月16日(金) 18:30 新茶屋
  - ・薬剤師会新年祝賀会について(福原会長)
    - 1月17日(土) 18:45 グランドエル・サン
  - ・産業医の紹介依頼について(事務局)

## 協 議

- (1) 県医検診委員会委員について(石原副会長)
- (2) 令和8年度鶴岡地区医師会事業計画(案)について(福原会長)
- (3) Net4U参加施設の拡大と運用促進についての要望について(福原会長)
- (4) 用度委員会および用度委員会小委員会について(三浦理事)
  - 1月20日(火) 18:30 小会議室
  - 1月23日(金) 15:00 会議室(小委員会)
- (5) 総務委員会について(菅原副会長)
  - 1月20日(火) 19:00 会議室
- (6) 職員の採用および募集人数の変更について(菅原副会長)
  - ・職員採用面接試験
    - 1月22日(木) 18:30 会議室
    - 1月23日(金) 18:30 会議室
  - ・募集人数の変更
- (7) 共催の依頼について(事務局)

\*\*\*\*\*

## 令和7年度 第11回定例理事会

(令和8年2月24日)

出席者	会	長	： 福原晶子						
	副	会	長	： 石原 良	菅原真樹				
	理	事	： 武田憲夫	三原一郎	蘆野吉和	本田 学	吉田 宏	岡田恒人	
			鈴木 聡	須貝孝一	三浦道治	渡邊秀平	中目哲平		
	監	事	： 阿部周市	真島英太					
	議	長	： 堀内隆三						
	副	長	： 三井卓弥						
	議	局	： 土屋清光	五十嵐亜希	井上祐司	長谷川典子			
	務								

## 報 告

- (1) 会員の訃報について(福原会長)
- (2) 県医第10回全理事会について(阿部監事)
  - 1月28日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- (3) 県医第10回常任理事会について(鈴木理事)
  - 2月4日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- (4) 地域包括支援センターつくし運営委員会について(中目理事)
  - 1月29日(水) 19:00 会議室

- (5) ケアプランセンターふきのとう運営委員会について（中目理事）  
1月29日(木) 19：30 会議室
- (6) 郡市地区医師会長と県医師会との連絡会議について（福原会長）  
1月31日(土) 16：00 ホテルメトロポリタン山形
- (7) みずばしょう運営委員会について（渡邊理事）  
2月2日(月) 19：00 会議室
- (8) 鶴岡みらい健康調査推進会議について（福原会長）  
2月5日(木) 18：30 オンライン開催
- (9) 在宅サービスセンター運営委員会について（本田理事）  
2月6日(金) 19：00 会議室
- (10) 湯田川温泉リハビリテーション病院経営委員会について（武田理事）  
2月9日(月) 19：00 講堂
- (11) 会長諮問に対する答申について（菅原副会長）  
2月12日(木)
- (12) 鶴岡市予防接種対策委員会について（菅原副会長）  
2月17日(火) 19：00 鶴岡市総合保健福祉センターにこ・ふる
- (13) 主治医研修会について（菅原副会長）  
2月20日(金) 19：00 講堂／オンライン開催
- (14) アクシデント報告について（渡邊理事）
- (15) 職員の退職について（三浦理事）
- (16) 令和7年度収支計算報告（4月～12月）について（各担当理事）
- (17) 令和8年1月期事業会計収入実績について（参考）
- (18) その他
  - ・新入会員オリエンテーションについて（福原会長）  
1月30日(金) 19：00 会議室

協 議

- (1) 令和8年度 鶴岡地区医師会会費賦課（案）について（菅原副会長）
- (2) 令和8年度 鶴岡地区医師会事業計画（案）について（福原会長）
- (3) 職員の採用および募集人数の変更について（三浦理事）
  - ・職員採用面接試験  
1月28日(木) 18：30 会議室
- (4) 総務部運営委員会について（菅原副会長）  
2月12日(木) 19：00 会議室
- (5) 健康管理センター運営委員会について（石原副会長）  
2月13日(金) 19：00 講堂
- (6) 機器選定委員会について（三浦理事）  
2月18日(木) 19：00 講堂
- (7) 用度委員会小委員会について（三浦理事）  
2月20日(金) 15：00 会議室
- (8) 健康管理医の推薦依頼について（事務局）
- (9) 嘱託医師の推薦依頼について（事務局）
- (10) 学校医の推薦依頼について（事務局）
- (11) 鶴岡市介護認定審査会委員の推薦について（事務局）
- (12) 後援の依頼について（事務局）
- (13) 固定資産の処分について（事務局）

\*\*\*\*\*

令和7年度 第3回臨時理事会

(令和8年3月6日)

出席者	会 長	長	福原晶子					
	副 会 長	長	石原良	菅原真樹				
	理 事	事	本田学	吉田宏	岡田恒人	鈴木聡	須貝孝一	
			三浦道治	渡邊秀平	中目哲平			
	監 事	事	木根淵智子	真島英太				
	副 議 長	長	三井卓弥					
	事 務 局 長	局	土屋清光	五十嵐亜希				
	他 職 員	員	20名					

協 議

- (1) 令和8年度各会計事業計画・収支予算・内訳明細（案）および固定資産要望（案）について  
(各担当職員)
- (2) 総務委員会について（菅原副会長）  
3月4日(木) 19：00 会議室
- (3) 臨時総会について（福原会長）

報 告

- (1) 職員の退職について（三浦理事）

## 表 紙

## 「白銀の出羽三山と庄内平野」

三原 一郎

この写真が誌面に登場するのは早春の頃ですが、撮影は正月明け。冬の澄みきった空気の中、白銀に包まれた出羽三山を、鶴岡市上空からドローンで捉えた一枚です。庄内平野の広がりとともに、厳冬の静けさと神域の気配が伝わってきます。



## 目 次

・表 紙	1
・鶴岡地区医師会新年会	2
・第 45 回 市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会	3
・令和 7 年度 地域医療連携推進協議会・登録医・ 医師会・庄内病院合同懇談会	4
・My Memories	6
・医師会ニューフェイス	6
・1・2 月行事表	7
・理事会報告	8
・編集後記	10

## 編 集 後 記

この冬は年末年始、1月下旬に最強寒波がありいつもの年に比べ積雪も多くなりましたが、寒波が終わると気温が高く雪解けが一気に進むところが以前とは異なり、このあたりに温暖化の影響が感じられます。過去最高のメダルとなった冬季オリンピックでは、放送時間から生放送で見ることはありませんでしたが、夜中の分娩がおわりスノーボード男子ハーフパイプを見ていたところ果敢に大技にチャレンジする姿に見入ってしまい睡眠不足となってしまいました。これからはWBCやメジャーリーグが始まり、今年も大谷選手ほか日本人選手の活躍が楽しみです。

今年は、丙午（ひのえうま）で、60年前は出生数が大幅に減少したそうですが、現時点での分娩予定者を見ると最近の分娩数に比べ極端に少ないことはなさそうですが、そもそも丙午に関係なく近年の少子化は深刻です。政治家のいう少子化対策はどこかピントがずれているように感じるのは私だけでしょうか。出生数は減ってもいつ始まるかわからない分娩に備え、時に緊急を要する事態に多くの人員が必要になる周産期の医療体制を維持していくのは容易なことではありません。安心して産み育てることができる医療体制を整え維持していかなければなりません。

大雪や渇水など天候のニュースを見て当地では幸い大きな被害等は少ないようでしたがこの先も天候不良などなく秋にはおいしいお米が手ごろな価格で食べられることを期待しています。

(三井 卓弥)

編集委員：菅原真樹・吉田 宏・阿部周市・三井卓弥・真島英太・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail [ishikai@tsuruoka-med.jp](mailto:ishikai@tsuruoka-med.jp)ホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](https://www.tsuruoka-med.jp)  URL <https://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27-1 TEL 22-0936 (代)